

令和 8 年 3 月、春の合同慰霊祭を行いました。



冬と春が入り混じる彼岸の空、来園され参列されましたご家族とともに
願いを込め供養を務めさせていただきました。

ご家族と可愛い子たちの思い出と愛の絆が結びますように
戒名紙にお書きしましたお名前は全て読み上げさせていただきました。

穀雨

2026 年 4 月 20 日～5 月 5 日は二十四節気の一つ『穀雨(こくう)』にあたります。

日本には 1 年を 24 分割し、それぞれに季節を表す言葉をつけた二十四節気という季節の呼び
方があります。そのうちのひとつが穀雨(こくう)であり、例年 4 月 20 日頃であるとされています。
穀雨は春雨が降って百穀を潤す頃という意味があります。

穀雨の頃には南から水蒸気を多く含んだ空気が流れ込むようになり、低気圧が
通過するときにはまとまった雨が降るため、田畑を潤して農作物の新芽を盛んに成長させます。
穀雨の次は暦の上で夏が始まる立夏ですが、この時季を過ぎると次第に天候は安定し、
日差しも強くなって初夏を迎えるようになり、植物や農作物はいっそう成長していきます。
そもそも穀雨とは、どんな意味を指すのでしょうか。

穀雨は「種まきや田植えの時期に降る雨」とされています。
この時期の雨は「百穀春雨(ひゃくこくはるさめ)」とも呼ばれており、
あらゆる穀物を潤し育てる恵の雨と考えられてきました。

作物を上手に育てるためには、この穀雨の前に種まきを終わる必要があります。
そのため昔は穀雨を目安としての作業の準備が行われます。

由来ははっきりしてはいないものの、江戸時代に太玄斎(常陸宍戸藩の第 5 代藩主松平頼救)
が記した暦についての解説書「暦便覧」において「春雨降りて百穀を生化すればなり」と記され
ています。この点からも穀雨が種まきの際にどれだけ重要視されていたか伺えます。

穀雨の前は清明、後は立夏と徐々に夏が近づいてくる時期でもあります。

特に穀雨の終わりには、「八十八夜(はちじゅうはちや)」が訪れます。

「八」「十」「八」の三つの字を組み合わせると

「米」になることから、農作業に縁起のいい日ともされてきたようです。

